

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102618		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大和西大寺		
所在地	奈良県奈良市菅原町184-1		
自己評価作成日	平成27年11月21日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりで、近隣幼稚園への定期訪問や、毎月の茶室へのお茶会の参加、大正琴の定期的な慰問も行っています。四季折々の行事や家庭菜園に力を入れており季節に応じた野菜を収穫、食事やおやつに形を変えて提供させていただいています。五感を感じて頂くことを大切にし、ご入居様と一緒に楽しんで生活させて頂いています。喜怒哀楽を大切にし、少しでも入居者様の笑顔が多く見られるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西大寺駅に近く、交通の便が良い立地にあります。設立11年目を迎え地域との結びつきも構築されています。利用者が住み慣れた地域に事業所もなじんでおり、お茶会や近隣の幼稚園への訪問などの交流も行われ、介護や認知症の相談窓口としても活動されています。施設内は整理・整頓され、穏やかな日々が過ごせるよう季節に応じた環境を整備されています。畑での野菜作りや収穫なども行い、利用者の持っている力を維持・発揮できるよう工夫されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、全職員が周知し実践に向け日々努力している。運営理念とは別にクレドを朝礼で読み上げ、目指すべきものが一緒であることの確認。	事業所内に理念を掲げるほか、スタッフが個々に信条を書いたカードを携帯し、毎朝唱和すると共に、常にその人らしい生活のサポートを心がけておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方のボランティアや幼稚園への定期訪問 毎月、茶道教室のお茶会へ招待して頂いており参加させて頂いております。	近隣住民との散歩などでの挨拶や、自治会にも参加し交流を図っておられます。幼稚園や茶道教室への定期的な訪問や施設見学を実施し、グループホームの相談窓口としても機能されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談をはじめ、認知症やグループホーム自体へ理解を深めて頂けるよう、問い合わせはその都度対応。見学も随時受け付けている。地域の行事にも参加、協力できるよう心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価後、運営推進会議の案内をご家族様に送付するが、平日のため参加者には偏りが見られます。ホームでの取組やテーマを決めての話し合い、ホームに対しての意見を頂いてサービスに反映出来るようにしています。	会議は2ヶ月に1回開催し、家族・地域支援センター・民生委員の参加があります。市への参加も要望されていますが欠席のため、議事録で後日報告されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点、ホーム内の情報伝達は出来る限り電話や窓口で直接行い指導を受け、相談に乗って頂いております。	電話や窓口訪問などで連絡を密にとって、お互い顔の分かる関係を築いておられます。何か問題が起これば、その都度相談されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に拘束に値しないかをスタッフ間で話し合い、利用者様の中核・周辺症状の変化に留意しながら全体で対応するように取り組んでいます。	施設の前に大きな車道があるため、家族の意向もあり、玄関はほぼ施錠されています。身体拘束については、内部や外部の研修を受け、知識を深めておられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修やマニュアルだけではなく、社会情勢や新聞の記事にも敏感になり、スタッフ間で情報共有として、そのことに対して話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を付けておられる方もいらっしゃるの、関係者の方、ご家族様と話し合いをさせて頂く機会も増えました。今後は全職員への理解が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等を用いて説明・同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等があれば直ぐに検討し、実施に向け工夫し反映しています。その後、ユニット会議等で見直す機会も設けています。	家族からは面会時などに意見を直接伺っています。意見箱も設置されていますが、直接の要望が多く、毎月ユニットごとに会議を行い、要望などを運営に反映できるよう話し合われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各階でのカンファレンスの内容は現場で直接耳に入るよう、コミュニケーションを図っており、それ以外にも意見や考えを聴くよう心掛けている。	スタッフが多く勤務している日や参加が多いように会議の日程を調整されています。テーマをあらかじめ決めておき、欠席者からも意見を聞いて、スタッフ全員が提案できるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心や、やりがいを持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年間で達成出来るカリキュラムを作成し、指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会合や研修には出来る限りホーム内の役職に関わらず、関係するものが優先的に参加出来るようにしています。近隣の施設とも交流させて頂く機会が増えてきています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居当初は精神的支えを一番に、不安や要望を出来るだけ聴き取り、その方の生活歴をご家族様から情報を頂き関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族様からの相談には時間を確保し、その要望を引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況と何で一番お困りになっているか、そしてどのようにされたいのかを本人・家族様から要望を引き出せるようお話させて頂いています。、それ以外に必要なサービスがあれば可能な限り対応させていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を生活の中で共有し気持ちに寄り添い共に支え合える関係・環境を目指し心掛けています。また、一緒に生活していく中で日々教わるがあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に訪問して下さり職員と一緒にご本人を見守り、意見を頂いたりするケースと、遠方やご家族様自身の体調もありホームに任せて下さるケースもありますが、いずれにしても相談・報告を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある人や場所の交流・環境は出来る限り関係が継続出来るようご家族にも協力頂きながら支援している。	外出は家族の協力も得ながら、数人で出かける機会を設け、買い物希望などにも対応されています。友人や近所の方の面会などもあり、なじみの関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思表示が困難な方や難聴の方に関しましては職員が間に入ることによって会話が弾んだり、入居者様同士がお互いのお部屋を訪れる場面もあります。介入しなくてもお互い同士の気遣いが見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族からの相談や経過を報告して下さるケースもあり、都度対応させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望は人それぞれ違いますが、職員は信頼関係を大切にする事で、少しでもご希望に応えられるよう日々努めています。ご家族様のご協力の得、情報を頂くことも多いです。	利用者との会話の中から汲み取ったり、家族から話を聞くなどして要望に対応されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居以前の生活歴やサービスの利用については、出来る限り情報を収集し把握に努めています。ご入居者様生活情報書も活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の流れや会話の中でお一人おひとりの出来ることの把握し、日常の申し送りや介護記録・モニタリングから現状を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者会議やカンファレンスの中で個別に検討し、身体面での事は主治医・看護師に助言を頂き、ご本人の思い、ご家族へ出来る限りの相談・提案の中から協力頂きプランへ反映させて頂きます。	ケアプランはケアマネジャーが作成していますが、利用者の普段の様子はスタッフの担当制にし、細かい現状を把握し、またスタッフ全体で話し合うことでよりよい意見を反映されています。家族には面会時や電話で確認されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録をし、気になる点や変化が見られる点があれば記録に残しスタッフ間で共有しています。またモニタリングで個別の様子や実施状況を記録し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズを聴き取り実施出来るよう、ホーム内・外で対応できるよう環境づくりの構築に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を常に行っている。地域の様々な情報も活用しながら、利用者様が社会生活を継続出来る支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの往診医への移行、今までのかかりつけ医の継続は、ご本人様、ご家族様の希望に沿って安心して納得した上で対応させて頂いています。また状況に応じ適切な医療を受けられるよう支援しています。	かかりつけ医への受診は家族に任せておられます。利用者個々に日程が違い、数回医師が往診されているため、その都度何かあれば往診以外の利用者にも対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で得た情報や気付きは看護職員へも共有し、適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は出来る限りご家族様のサポートを行い相談はもちろん情報の提供に努めています。受け入れ困難状態でも出来る限りスムーズに受け入れ可能な病院を探し対応させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居相談や契約時に説明を行い、その後状況が変化する度、事業所の出来ることを説明し、ご家族様に協力頂きながら、出来る限り地域で支えられるよう取り組んでいます。	看取りについての情報を集め事例検討することで、今後、看取りにいつでも対応できるように検討されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや対応策については、事あるごとにカンファレンスや会議でも周知徹底を行っています。事故報告書・ヒヤリハットなどを通じて事例から学び原因・今後の対策を考え実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災対策については避難体制は出来ている。 地震・水害に関しては、マニュアルを使用しイメージを持つようにしています。	年に2回、利用者の誘導を想定してスタッフ間で避難訓練されています。今後消防署や地域住民に声をかけて参加を促していきたいとのことです。備蓄は施設内と外のガレージに用意されていますが、今後毛布等の備蓄も検討するとのことです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と言う事を常に念頭に置きプライバシーの保護を徹底する。自尊心を傷付けない事はもちろんですが馴染みの中の言葉かけや、その中から蓄積された人間関係があって成立することも事実です。	利用者個々の性格を把握し、声掛けには注意されています。家族から利用者の生活歴や状態の情報を集め、自尊心を傷つけないように対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中から等、自己決定の場面を出来るだけ作れるよう工夫し働きかけるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや好きな事、希望などを把握する事で、その方に合った時間を過ごして頂くよう支援させていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択も本人様に合わせるように、また女性の方なら、首元にスカーフを巻いて頂くなどさりげないおしゃれや身だしなみの声掛けなどさせて頂き支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様との準備や片付けは職員が行う事が多いですが、スタッフが各テーブルにつき利用者様と談話を楽しんでいます。出来ることは環境や、条件を整えて食器洗い、おやつ作り等願っています。	献立は本社で一括して管理されていますが、畑で取れたものや利用者の希望には臨機応変に対応されています。スタッフも同じ食事を同じ時間に摂り、楽しく食事されています。テーブル拭きや片付けなど能力に応じて一緒にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が上手く摂取できない方に対しては、お茶ゼリーなどを作り対応させて頂いています。その他も食事量なども臨機応変に対応させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に合わせた道具(歯ブラシ)等を活用し自立の方には声掛け、介助が必要とする方へも実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄状況や状態を把握し不快な思いをされないよう声掛けや見守りを行い維持・向上出来るよう、おむつの使用を減らしとトイレでの排泄の支援に努めています。	誘導や声掛けで排泄チェックをされています。排泄が自立されチェックが難しい方は、トイレの後にさりげなくチェックするようにされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医・看護師への相談・報告を繰り返しながら、水分摂取の見直し、運動量を増やしたりと個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔の保持・身体状況の把握も含め個々の体調に合わせて、週3回程度入浴して頂いている。入浴日の設定はありますが、その時の様子・体調に合わせて対応させて頂いています。	利用者によって曜日が設定されているため、毎日入浴準備が出来ています。希望があればいつでも入浴することが出来ます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝られない方に対しては無理強いせず、話の傾聴、飲み物を提供し安心して頂けるよう支援し、一人ひとりの生活習慣を把握し、変化があれば情報共有しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の観察・報告に努めている。服薬内容が変更になる場合は必ず受診記録や申し送りノート等を活用し共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や、ご本人からの会話の中で楽しみ事や日課・役割を見出し達成感を感じて頂くよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物、外気に触れ気分転換を図って頂けるよう努め、花壇の花や、畑で収穫できたものに触れることで季節を感じて頂いています。	近隣への散歩は気候や希望に応じて対応されています。数人で外出する機会も設けられ、季節を感じる事が出来るよう支援されています。住んでいた家に帰りたいたいの思いがある方には、家族の協力を得て対応されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけられた際には出来るだけレジ支払いを見守り支援します。難しい方は、職員が対応させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があれば対応させていただきますし、職員からも働きかけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とリビングが別に確保できているので、食後は場所を変え、くつろいで頂ける空間があり居心地良く過ごして頂くよう職員と相談し工夫・改善を重ねています。	レクリエーション時の写真の掲示や季節の飾りなどがあり、アットホームな雰囲気です。居心地の良い空間を提供されています。2ユニット間での合同の催しなどもあり、利用者の交流も楽しみのひとつとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間はもちろん各居室に置きましても清潔を保ち臭いには敏感に反応できるよう努めています。壁画には季節ごとの貼り絵や写真などを飾ったり等工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前から使い慣れた馴染みのものや思い出のあるものを持ち込んで頂くよう、ご家族様にも協力を依頼する事もあります。	居室には写真などそれぞれの利用者のなじみの品があり、居心地良く過ごせる支援をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、共有スペースを自由に行き来できるよう安全な環境づくりに努め、その中で個々が自立を意識できるよう支援し、「できること」「わかること」を職員が見極め、一人ひとりの力を活かした生活に反映できるよう工夫しています。		